

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後児童デイサービス はうる		年 月 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		重心以外児童は、男子・女子と部屋がわかれている。人数が増えた場合の調整もできています。	重心児童1階、重心以外児童2階で基準以上のスペースを確保している。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員の配置数は適切である。	個々の専門知識を向上していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建物の構造上、車椅子など身体障害児に適した段差・トイレ・風呂ではないが、スタッフと工夫して過ごせている。児童も成長とともに大きくなり、手狭に見える時がある。	特に玄関ドアは狭いが、怪我しないよう気を付けながら出入りしている。廊下は狭いが、皆さん上手に譲り合って通っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日清掃しており、児童来所前に感染予防で換気や室内消毒を行っている。	長期休暇については、スタッフの勤務時間内で調整して行う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		体調不良や不安定になったとき用で、個室にて静養・落ち着ける配慮が出来る空間がある。	個室は特別の場合であり。そこから集団に戻るような療育を行う。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		随時ミーティング・会議を行い、職員間で共有できているが、頻度・方法などに関して改善の余地もある。	毎回、頻度・方法などに関して改善していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ホームページ内に閲覧できるようにしており、SNSなどのツールを使用し保護者へ御覧いただけるよう案内している。	今後もアンケート結果をもとに、療育に携わらせて頂く。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議・ミーティングで情報交換したり、支援について話している。また、次の日の午前中に振り返りをしている。	内部での研修を開催し、職員の資質向上を行っている。現地、オンラインでの研修も今後参加している。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		市内の児童連携部会で2・3事業所が各事業所へ出向き、意見交換や様々な業務改善の話し合いをしている。	今後も積極的に参加し普段の療育に活かす。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		西児連を通して、外部の講師を招いて、職員が積極的に参加している。事業所内でも委員会で話し合っている。（感染・虐待・安全管理・BCP等）	今後も積極的に参加する。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		事前にプログラムの計画立案して実行している。行ったものはSNSを通じて発信している。	話し合った結果を、円滑に実践し、良い結果がでよう実施していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		事前に保護者へアセスメント整理表へ記載してもらい、それをもとに個別支援計画書を作成している。	本児と保護者のニーズになるべく答えられるような計画を立てる。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		それぞれ担当しているスタッフに現在の状況を聞き取り、話し合いを行っている。	全員で統一した療育ができるよう努力する。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		スタッフと話し合い計画書を作成し、保護者合理のもと支援している。	全員で統一した療育ができるよう努力する。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々支援している中で、行動記録に残し、記録をもとにモニタリング報告している。	記録アプリ導入し、記録の閲覧でアセスメントを行う。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		アセスメント整理表をもとに児童のニーズにあった計画書を立てている。また、具体的な支援内容を盛り込んでいる。	法律が新年度になり変わって、慣れないところはありますが、一つ一つ項目理解して支援計画書へ盛り込んでいます。

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		主に、保育士・児童指導員が立案しているが、全員で意見を出し合っている。	看護師や心理士も意見を出してくれている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎シーズン、長期休暇の前に前回実施分をもとに考案している。	企画が固定化しないようにしており、季節ごとに工夫している。固定化することで曜日や内容を理解できる人もいる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個人の特性を理解し、個別活動と集団活動と考案している。	集団行動に溶け込めない場合、個別活動を行う時もあるが、後に集団活動へ参加できるよう声かけて促している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の担当の利用児童の注意事項、前日の振り返り、連絡事項を確認している。	ミーティングで言い忘れた連絡事項などは、各自LINEを通して発信している。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		直後に話し合ったり、パソコンやLINEを通じて共有している。	同上
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は必ず残して、振り返って見れるようにしている。	記録アプリ（HUG）を活用している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		スタッフと話し合いモニタリングを行い、計画書へ繋げる話し合いと見直しが出来ている。	見直しし、新しい計画を立てる際は、保護者との相談もこまめに行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		自立支援と日常生活の充実のための活動、創作活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供。その中で組み合わせ支援を行っている。	今年度より「4つの基本活動」が導入されたので普段から意識して支援する必要がある。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択はもちろんのこと、自分で決定できるような声掛けを行っている。	相手の反応をしっかり見て適切に判断して動く必要がある。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		サービス担当者会議に出席し、児童の現状を発信し、保護者や関係されている機関の情報を吸収し、スタッフへ報告し支援している。	普段携わるものが会議に参加して、スタッフへ情報発信・共有することが必要。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療については保護者が受診した後、連絡を受けたものは忠実に守ってケア・支援する。	意見の食い違いが内容、保護者と意見の擦り合わせが十分に必要。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		情報共有や連絡調整は、ち密に保護者とやり取りしている。	トラブル時でも慌てず丁寧な対応が必要。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前の情報は、保護者と相談支援員からの情報で賄っている。	放デイは接触する機会が少ないが、今後あれば理解を深め情報共有したい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		サービス担当者会議や関係機関との会議で情報を提供している。	会議以外でも紙面や電話で引継ぎとして提供する。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		児童発達支援センターとの関わりは少ないが、西児連で情報収集させてもらっている。	引き続き情報発信・共有させて頂く。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		施設の近くに存在していないので、利用が難しい。	放デイは接触する機会が少ないが、イベントごとなどあれば参加したい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		市内の放課後等デイサービスの方が集まる会には積極的に参加している。	今後も積極的に参加する。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		帰り送迎とLINEや電話で共通理解している。	言い忘れなどないように気を付ける。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		帰り送迎にて実際に面と向かって相談に乗ったり、情報提供している。	母子ともに、身体的・精神的に落ち着いた生活ができる用に努力していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		児童発達支援管理責任者より契約時に説明を行っている。	今後も継続する。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		懇談での話や連絡帳をもとに常日頃から意思を尊重し、意見を聞いている。	その時の子どもと保護者のニーズに的確に対応する。

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		前年度の振り返りとともに、今後の支援の説明を行って同意していただいている。	今後も子どもと保護者のニーズにこたえられるよう努力する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		懇談で現況を聞いて、それに対して意見の提案もしている。	帰り送迎で話きれない場合、電話対応も受付ける。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		現在、開催しておりません。卒業生やその保護者からの話を在校生の保護者へ情報共有している。	今後あれば行いたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		児童発達支援管理責任者が窓口として対応し、状況に応じては、更に上の上司が対応する場合がある。	希望・要望に応えられるよう努力はさせて頂いているが、どうしても難しい問題もあるがその都度話し合いで解決させて頂いている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		HPやSNSは特に今年度力を入れている。	個人情報で名前を伏せること写真掲載不可の方の顔を必ず掲載しないよう気を付ける。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は、必要な物は厳重に保管し、必要ないものはシュレッダーで破棄している。	今後も気を付ける。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		相手の顔の表情に気を付け、反応に対して話し方に工夫をする。不安や悩みを解決できる話し方をする。	相手の思いを正確にくみ取ることができるよう、コミュニケーションを大事にする。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		コロナ後は機会が激減したので、現在は図れていない。	機会があれば図りたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを整備し、職員が随時確認できるようにしている。	更新できるよう努力する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		常日頃から話し合いやシミュレーションをしている。	スタッフへ周知できるよう時間をとって話し合いも必要。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者へ緊急時についての用紙へ記載してもらっている。	毎年更新し、確認する時間を設ける。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者から事前に聞き取って、対応している。	今後も気を付ける。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		会社内で委員会という形で会議を開き、話し合っている。行政の方の協力で、講演にも出席している。	講演後、研修報告を行う。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		今後、HPやSNSを通じて行う予定。	定期的に安全確保に関する話を話し合いでまとめ、家族等へ話が出来れば、と思う。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		忘れ物をしてヒヤリハット報告をしてもらうようスタッフへ話している。	報告書を書くという習慣も身につけられるよう定期的にスタッフへアナウンスする。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎年、西児連主催の虐待防止法の研修に多くの職員が参加できるようにしている。委員会での話し合いの開示・報告も行っている。	マンネリ化にならないよう事例も含め、話し合う時が必要。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在は、拘束するような事例はないが、どうしても必要な場合は計画書へ記載する。	虐待防止の研修等で話し合う時も必要。